

1985年4月号

1985年4月5日発行(毎月1回5日発行)

No.102

# あんふあんて

発行人/ 発行所/あんふあんて出版部  
定価/200円 振替口座/ あんふあんての会 電話/

沈丁花

子供の歓声

真新しいインクのおい

まっ白いノート

ちよつぱり気取ったワンピース

そして、あのかほり

ふんわり 心ときめいた 春

真新しいインクもノートも

遠くに忘れてきたけれど

ほら、今年も

ほんのり、あのかほり

どこかの垣根に、ひそやかに

かほりだけが、春を漂う

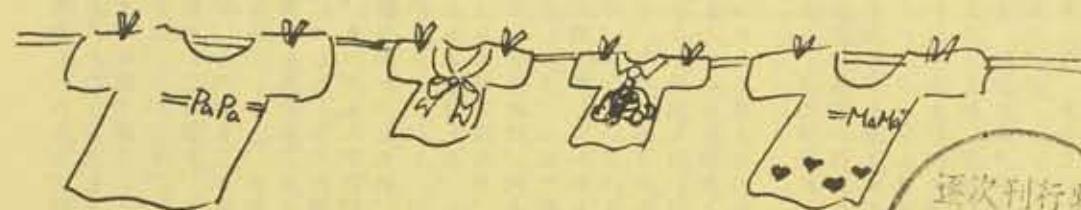
何故か 胸つまる

今年も あのかほり

詩・イラスト

坂本

Fine today!!



逐次刊行物

昭 60.5.1 和

国立婦人教育会館  
情報図書室



## 入園・入学 シーズン特集



いよいよ春がきて、心も体も新しい気分になる四月。子供が幼稚園や小学校に入るこの時期は、親の方も考えさせられる問題が多い事と思います。そこで今月号は、幼稚園や自主保育(自主幼稚園)、就職の問題をとりあげ、特集をくんでみました。いろいろな意見を参考にして、また一歩踏み出しましょう。

☆ 三年目の幼稚園・自主保育の二本立て 中野区

自主保育グループ「どろんこkid」はこの春で三年目。グループを作ったと同時に私立幼稚園に入園した娘も、今年は年長組。実は、自主保育をやりたいと思い続けていたのに、娘が入園手続きをする十一月までには、どうしても希望が持てず、さりとてこのままじっと家に閉じこもる生活には我慢がでず、何とか生活を変えたくて、思いきって近くの幼稚園に入る決心をしたのです。その後どうしたものかグループを作って、幼稚園へ通う年齢の子は家の娘だけだったので、週一回の活動日にはみんなでお迎えに行くなどして、違和感なくやってきました。彼女自身も幼稚園は幼稚園、どろんこkidは

どろんこkidとして受けとめていたようです。でも比重は、親が自主保育に傾いているせいか、どろんこkidの方にあるように思えます。

幼稚園はごく近所で、お勉強的な事は一切させないし、自由に遊ばせてくれる所で、先生方も園児一人一人に心をくばっている様子で、いい幼稚園だなーと思っています。でも自主幼稚園作りのシンポジウムで聞いた矢野さんの言葉に魅かれるのです。「幼稚園は行って行かない方を選んでみていいかなー。このまま自主保育の仲間たちとやってみたいー。んじやないかなー。」何ていうか、あんふあんで知ったばかりに、つい自分でやる事に燃えてしまいたいそう、この春からは自主保育に肩入れしそうな気配です。

自主幼稚園考

小学校からの報告 世田谷区

我が家の長男を、ねこじゃら会の幼稚園から区立の小学校に入園させてから、四年になります。卒業の時、私は初めて我が子を小学校という「世間」に、送り出す不安で胸がいっぱいでした。その不安は、少々誇張した言い方をすれば、自主保育という「私」教育で育てた息子を、「公」教育に委ねる、という気負いであつたかもしれません。

卒業の前日、私はブレーパークの一隅に、毎日の活動で使った思い出の品々を、タイムカプセルにして子どもたちと埋めました。その作業は息子にとっても、四年に及ぶ自主保育との決別の儀式でもありました。そして、

そのとき五年後に再会し、みんなで掘り起こそうと誓って別れた八人の子どもたちは、離れ離れになったまま、全員で揃うこともなくこの春には五年生になったのです。

我が家の場合、長男の二年後に、長女もねこじゃらを卒業させ、その娘も三年生になりました。この二人をみてみると、六年もの長い間、自主保育で育てた私の努力にもかかわらず、今ではねこじゃらしの片鱗すらも見受けられません。それでも入学当初には、幼稚園での教室体験が無かったため、授業中の態度や物の見方がユニークだと、担任教師から評価されたこともありました。しかし、その評価も学年が上がるに従い薄らぎ、今では自主保育の影響は学校生活には、何も見られないと言つてよいでしょう。「私」教育から「公」教育に活動の場を移してからも、二人の子どもはその中で、自分のいるべき場所を見つけ出したようです。今では毎日の生活に忙しく、タイムカプセルの発掘も言い出しさえしません。二人にとつての自主保育とは、そんな程度のものだったとも言えるのかもしれない。

幼稚園をどうしよう、また学校に入つてからはどうなのか。自主幼稚園か否かの選択に揺れ動く、何人かの親の姿を見るにつけ、数年前の私の姿がオーバーラップします。自主保育育ちの、最初の卒業生を学校に送り出した親の立場から言えることは、普通の幼稚園でも、自主保育でも、学校に入り学年が進めばどの子でもみんな同じだ、ということに尽きると思います。そして、多分このことは私のみならず、自主保育から小学校に子どもを

入れた親は、大部分がそう感じているのではないかと、とも思えるのです。

しかし、小学校入学以前の教育、すなわち普通の幼稚園という「公」の場で育てるか、「私」の手で作った自主保育で育てるか。そこでの子どもの有り方は全く違います。そして、そのどちらを選ぶかは親の決断に委ねられるのです。「私」か「公」か。それはどちらの教育が、就学以前の子どもにとって取り返しがつかないかの選択だという気がしてなりません。

我が家の二人の子どもには、今では自主保育の片鱗はみられませんが、自分たちはかつてねこじゃら会という、自主保育の場にいたこと。そしてその時代は自分たちにとって決して忘れ去ることの無いものだ、ということ。ふとした兄妹の会話の中で、私は度々耳にすることができました。そしてその活動の中で出遭った、大人や友だちとの思い出を親の私と共有できるのが、喜しくてならないようです。私にとつても、そんな幼年時代を子どもに送らせてあげたということが、何にも勝る親の愛情だったと誇りに思えるのです。



幼稚園には行かせたくないけれど…… 中野区

最近、娘は「明日は学校だから」とか、「〇〇幼稚園に行く」と等と、連発している。おそらく私から離れ、自分がもう大きくなったのだと言いたいのでしょう。来年は、入園期なので選択を迫られているのです。

私は今の幼稚園のあり方、保育者の子供観に疑問を持ち、皆が行くからという母親意識になじめなくなっています。

私が疑問を持った発端は、教諭免許をとるために、少しの間幼稚園で働いていたときです。ある時、ひとりの子が絵はどうやって描くのだろうと、クレヨンを持ってポンヤリしているのです。声をかけても、「わからない」と線を一本描くことさえしませんでした。子供は、絵を描きたがるものばかり思っていた私は、戸惑いました。そんな時、「どうしてそんなものを描くのかわからない。あなたが上手に描けている」とか声をかけている先生がいました。それでその子は、先生が気に入る上手な絵が描けないからと、描くことをやめてしまったのだではと思つたのです。へもちろん、この場合家庭でのこと、子供自身のことなど、複合的に考えるべきですが。

この先生は、特殊なのかもしれませんが、園での子供たちをみる中で、幼稚園とは何であるのかを考へるようになったのです。幼児期では「遊び」の経験が成長にとって重要であると思われ、専門家が提案することは、発達を促す上で、合理的であり効果的なこととがらです。動機づけとしてカリキュラムを設定することは必要ですが、その進め

方を検討したいのです。与えられたテーマをこなすことが中心になつていて、本来の遊びの意味が忘れられている気がするのです。遊びとは、本来自発的で快楽的であり、無目的なものなのです。それぞれの子供が自分で感じ、考え工夫して楽しむ、その「熱中」こそが、重要なのではないのでしょうか。もし設定されたテーマが、子供たちのひらめき、思いつきによつて全く別の展開をみせても、それに対応できる柔軟な態度が保育者にあるのなら、それは輝きのある子供の眼差しによつてより充実するでしょう。

集団の中で、活動の内容を豊かにし、協調性を養うことは大切だけど、それと個性とは別な問題です。扱いやすい、おりこうな子に育てようという匂いがしてならないのです。カリキュラムを一概にこなすという思考は、労働管理の発想に似ていて、子供たちを大人の役に立つ存在に仕立てるための方法と感ずるのです。

幼児期にいろいろな素材を与え、経験を豊かにし、多くの自分以外の人に出逢うことは大切だけれども、抵抗力の少ない今の時に、子供を管理された所におきたくないと思うのです。とは言つても、我が娘はひたすら幼稚園に行くことを思い、公園で友だちに会えば、喜々として遊ぶ姿を見るにつけ、子どもを思いをむけにできず、考え込んでしまっています。私にとつてのこれからの問題は現実の状況の中で、自分の思いをどのように伝え、動いていくかです。

いつのまにか「疑い続けること」というやっかいな習性を身につけてしまったようです。



# 「若い母親のための 子育て講座・京都」 に参加して



あんふあんで京都グループと、共同保育の「めだか」の企画として、三月十日に長岡京市内の中央公民館で、「子育て講座」が開かれた。当日は四十名近い女達が集まり、質問も活発で、参加者の関心の強さが感じられた。

☆ 長岡京市 ☆

「子育て講座」に参加して、いろいろな人の質問を聞いてみて気になったのは、自主保育で、子供達の生活や成長がどの程度保障されるのか。あるいは、保育に素人の私達が玄人に任せることなく自主幼稚園をやれるのか。といった質問にみられる「あなた任せなら安心だ。」という意識。

何か權威のある、皆と同じような所に、子供を任せれば、もう大丈夫、もう大過なくすごせる。という思い込みを、私は無意識のうちにかなり根深くためこんでいるのではないだろうか。

本当に大丈夫です。と安全、確実を保障さ

れる事など、子育てにあり得るのかどうか。そして子育てに安全や確実さを優先させる事が、そもそも子供の成長にプラスなのかマイナスなのか等々、私の中から、次々に疑問がふくれあがってくる午後だった。

長岡京市

「幼稚園に行かないまま小学校に入學して子供は大丈夫なのだろうか。」今回の「子育て講座」に参加した大半の母親達は、こんな疑問を持っていたのではないだろうか。それに対して矢野さんは、「幼稚園に行かなくてもいいから、子供がどうにかなつちやうという事はまったくないです。」と、明確に答えていた。自主幼稚園という形で子供を育てていくという事を考えた時、さていったいどんな事をしなくてはいいのかと、誰でも不安になると思う。ほとんどの親は、子供が四・五才になれば幼稚園にいこうものだと、何の疑いもなく考えている。「自主幼稚園をつくるんです。」と云えば、「どうして、普通の幼稚園じゃダメなの。」という言葉が返ってくる。では何故私達が自主幼稚園をつくるのかと言え、今私達の置かれている状況・母と子の生活・家庭というものの、それら全部を抱え込んでいく社会というものの様々な問題があるからという事になる。

私自身の事を言ってみると、結婚して七年になる専業主婦である。二才十ヶ月の男の子が一人いる。七十八才の舅と七年間同居している。家の近所には子供がいらないし、公園に行ってもひととこ一人いない。同世代の人間が近所にまったくいない。夫が唯一の友達みたいな感じ。子供が生まれてからは自由に外

出もできず、誰ともしやべらない毎日で望みしてしまえそう。ああ、友達がほしい、子供にも私にも。切にそう思っていた。

そして、「めだか」というグループに出会ったわけだけれど、昨年の十月から週三日の活動で、徐々に私も子供も何から自由になつたような解放感がある。午前中はまだまだぜいたくな自然がいっぱい残っている長岡京の中をあちこち歩きまわっている。長岡京は京都の西山のふもとにあり、山あり川あり竹の林がありで自然探索が自由に出来る環境にある。そういう自然の中では、子供達は大人達が何のお膳立てをしなくても、自分達の手で遊びを見つけていくものである。おもいきり歩いて遊んでおながすいたら、みんなでお弁当をひらく。午後は小さい子は昼寝（場所）は会員の家をそれぞれ解放している。大きい子はダンボール・土・水・ねんど・えのぐ・ガラクタ等の素材を使つての遊び、クッキーやパンなどの料理のような事、針を持つてものをぬう遊び、くぎやカナヅチのこぎりをつかつて大工仕事のような事などその日の気分できりくんでみる。

こうした楽しい活動が子供がほんとうに小さいうちから積み重ねてゆくならば、四・五才になつたからと言って子供を幼稚園に入れる必要はないと思う。

子供の時に最も大切な事は、キラキラ輝いているような楽しい体験をいっぱいすることだ。それがすべての成長のエネルギーとなつてゆく。「めだか」は、親も子もそういう楽しい体験をいっぱいしていける場だと私は思う。

## 就学児健診について考える

就健を考える・私の場合

新座市

就健の目的の一つは障害児と健常児のふり分けであり、それに反対の時は拒否する事もできるのは知っていたが、いざ娘が自閉的傾向児と言われ、ふり分けられる段になつて初めて、「ふり分け」のもつ意味を考えるようになった。

障害を持つていけば、その人に適した施設に行つた方がよいのでは、と考える人も多いと思う。障害児専門の保育者にしても、一番伸びる方向を導く事が大切と、普通学級には特にこだわらない。

しかしその結果、障害児は、大きな器（社会）から切り上げられて小さな器（施設）に移され、別の世界で生きて下さい、人間としての条件が足りませんから、と排除されることになる。一方、健常児は障害児の排除された社会で育つ。ハンデを持った人間と共に育つことのなかった多くの人間は、障害者を特別な目で見て、同情はしても手を貸す事は少ないと思う。しかし、福祉制度とは、本来健常者、障害者を問わず全ての人が同一社会の中で、気持ちよく生きていく為のものではないのだから。

生まれた時から、ハンデの有無に関係なく、当たり前と一緒に育つていくことがとても大切だと思ふ。その過程で弱者を助ける力が身につく、様々な人の存在を受け入れていける様

になるのではないか。いじめの問題も、これで少し解決されないだろうか。

就健を拒否するのは、障害者を排除する制度を切り崩す一つの小さな運動なのだと、本当の意味で理解できた。三月三日、「障害児を普通学校へ入れる親の会」の交流会へ参加した。この四月就学の我が子を何とか普通学級へと思つてゐるが、まだ通知が来ない、また話し合うつもりだが、何か良い知恵は、と一生懸命話す親達を見て、もう三月なのに私はびびりし、同時にかなしくなつた。

杉並区

娘がこの四月から小学一年生になる予定です。赤いランドセルをながめるたびに、小学生気分を高めている様子が中々なくウキウキのこの頃。ところが彼女にはまだ「就学通知」が届いていません。

昨年十月、就学児健診が行われました。前日、私は「知能テストには反対なので就学児健診は受けません」と連絡しました。その後学校から「前回受けられなかった児童はもう一度健診を行います」と連絡が来たのは十一月でした。今度は父親が受けたいと答えると「学校の話もあるから一度御父兄に来ていただけないか」というので学校に行くことになりました。案の定、学校の話などより、子どもの健康状態をそれとなく聞いてきます。結局、うちの子は障害児ではないらしいと判断した上で「この学校では知能テストの結果でお子さんを判断することはしません。どのようなお子さんでも御父兄が望めば受け入れられます。」学校がどうぞ、と言つても障害児の場

合、教育委員会が出てきて、「就学相談」という名目で普通学校をあきらめるよう親を説得する例もきいています。

子供自身がまだ「なぜ」という判断ができない時、私たちは大人の判断で、これをしない、あれはダメと教えたりします。もし子どもから「なぜ」ときかれた時、大人の側にはそれなりに答が用意されているはずですが、私は入学前の知能テストは、普通児であるか障害児であるか○×をつけるものと思つています。うちの子は、まちがいに○印をもらえらることも、印をつけられないことも、それがイヤなのです。子供が知らないうちに、そんなテストを受けてしまうことも嫌なのです。

さて、学校との話は一通りつきましましたが、次は、教育委員会から手紙と電話で「就健」を受けないと、「就学通知」が出せないといつてきました。力の強い子が、「俺のいうこときかないと、いじめるぞ」とすごむ態度そのものです。でも教育委員会は、「通知」を出す所であつても、出さなければいけません。権利などはないのです。だから、私はいじめっ子などシカトして、入学式に受けて、教育委員会の事務処理のズサンさをいつけてやるつもりです。

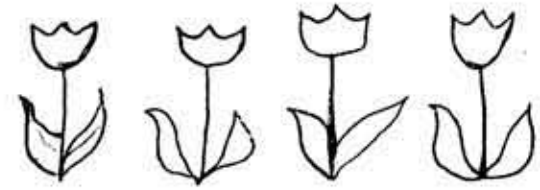




## 私たちのお産を

### ふりかえって

#### —出産アンケート中間報告—



再びアンケートのお願い  
3月号で、最近入会なさった方へのアンケートのお願いをしました。が、発送の際こちらのミスで、多数の方にアンケート用紙を同封しそなたってしまいました。ごめんなさい。ダブって行く場合もあると思いますが、用紙を今月号にもう一度同封いたしますので、返送がまだの方はよろしく願います。  
送られてきたアンケートの抜粋を少しづつ紹介していきたいと思いますが、もつと言いたいことのある方は、どしどしおたより下さいね。  
(大山・川崎)

質問項目  
①お産の時、夫に立ち合ってほしいと思いましたが、これからの産む人へのメッセージ等。  
②お産する場所は誰と、どういう理由で決めましたか。  
③妊娠中にラマーズ法について関心がありましたか。  
④妊娠・出産を通して気になったこと、困ったこと、これから産む人へのメッセージ等。  
☆分娩に立ちあつてほしいとは思わなかったが、陣痛室にはいてほしかった。陣痛室前で別れるのが心細かった。(世田谷区・)  
☆出産にはもちろん動物的な感じがある。他人と一緒にいる中で夫が立ち会うことに違和感あり。(府中市・)  
☆出産は二人の共同作業だと思っていますので、どんな夫に分娩室に入ってもらうべきです。(埼玉県越谷市・)  
☆いざという時安心だと思つて総合病院を選んだのですが、担当の先生が行くたびに変わって、産む時どの先生になるかわからないという有様で、とても不安でした。信頼できる先生が見つかるとういことです。(群馬県・)  
☆大病院はもういやだ。人間として扱われるのではなく、物体として扱われた。管理体制がきびしく、個人のペースで生活しにくかった。妊娠の人権をふみにじられたようなことが多々あった。もつと人間的な温かいつながりの中で産みたい。(世田谷区・)

☆一人目は暗くて静かなお産婆さんの家、二人目は自宅マンションでリラックスして、三人目は近くに住む母のところへ産みました。三回とも夫が立ち合つての出産でした。お産はものすごいエクスタシーだと私は思います。やはり共に味あわなければもったいないよ。(市川市・)  
☆病院を選んだのは、設備が整っていたことと、先生・看護婦さんと会って話をしたらとても親切だったから。それと、二人部屋で、赤ちゃんの初めの三日間は別で、それから後は同室になるという理由。  
でも、陣痛促進剤の点滴を受けながらの出産はとても嫌なものでした。初めてだったし、事前に促進剤を使用することの説明もなかったため、拒否することもできず……。今度は自然のままの出産がしたいと思っています。(荒川区・)  
☆二人目を産む時、明け方に陣痛が強くなり上の子が寝ているままおいて出たので、気になりました。姑は出産後の養生は必要ないと思つていたので、何かとやりにくかった。(大阪府・)  
☆生命誕生の神秘や偉大さを夫にわからせるためには立ち会つてもらふのが一番だが、実際には邪魔になるし、自分ひとり苦しんで、出産後の心身共のやすらぎがどんなに必要か失敗してみて痛切に感じる。(A子・)  
☆産むという業は何と哀しいものなのかとおもいました。(浦和市・)

## 出産後の夫

沼津市



出産前から夫婦で話して、こちら(沼津)で産むことにしました。実家の母などは「帰ってきたら」と言ってくれたのですが、私と夫の二人の子供ですから是非一緒に産んで育てたいと思つたのです。夫は「家事なら任せとおいて」と言ってくれていましたし、でも出産したその日の夕方から母が埼玉から来てくれ入院中と退院後の五日間は家事をやつてもいいよと。さして帰った後です。夫はともよくやつてくれました。朝食のしたく、二人分のお弁当、夕食、休みの日は掃除。でも、しかしです。二週間、一ヶ月とたつにつれ私はノイローゼ気味になりました。子供は泣く、今まで仕事をしていたのに急に家庭に入つて会話がものすごく少なくなつた。一人でさみしくてメンメン、夫にもグチをこ

ぼしぼし「あなたは仕事とはいえ、外に出られていいわね」等々。こんな事なら産まなければ良かったと心底思いました。母親がこんな精神状態では子供に良いはずもなく、おっぱいの出も悪く、一ヶ月検診では「ミルクを足したら」と言われ、絶対におっぱいで育てようと思つていた私は大ショック。仕方なくミルクを足して、それにまた自己嫌悪したり、そんな時雑誌で桶谷式母乳マッサージをやっている山西みな子先生を知り、東京まで出かけていろいろ指導していただいておっぱいの出も良くなり子供も太つてきて、私も落ち着き、夫もホッとしたようです。  
核家族の多い現在、夫婦だけの出産で大変です。よね、私の夫は仕事を持つていて人として最大の協力をしてくれましたからそれ以上望むのは無理だと思つた。でも初めての出産でしたし、もつと精神的にしつかり助けをもらつていたら楽だったなあと思つた。いろいろな問題もありますが、夫が出産休暇を取れば一番いいなあと思つた。そういうものが早く実現できる世の中になるよう少しづつでも働きかけていきたいですね。  
親に頼らないお産を  
町田市

出産予定日前日、無事男の子を出産しました。とても安産で出産三時間後には一人でトイレに行けましたし、五日目に退院、六日目には五才の娘を幼稚園まで送つていきました。今回のお産に対しては、十一月号(698)で報告した市の水泳教室参加などをきつかけに「自分で産むのだ」という自覚を強く持つていましたが、やはりそれが良かったのだと思つた。  
今回は親が手助けに來れないとわかつたので、その分夫や友人たちにあれこれ協力してもらいました。近所の人たちは産院まで車に乗せていつてもらつたり、娘を預かってもらつたり、幼稚園のお母さんに送り迎えをしてもらつたり……。  
夫とは「私たちが協力して頑張ろうね」とちかちか合つていましたが、疲れて帰宅したあとの食事の仕度や洗濯など、かなりよくやつてくれました。しかし、買物だけはどんなに頼んでもやつてくれず(買物カゴを持つてウロウロするのがはざかしいのだそうです)友人に頼もうとすると「自分たちでやるべきだ」と反対するので、しかたなく私が買物に出ました。でも私は、今あまり無理をしないと年々から具合が悪くなるのではないかと不安でしたし、そうでなくとももし私が病気で寝込んだりしたらどうするのだらうと思つていました。  
ところがその後、夫はたまに買物をしてきてくれるようになりました。また、一家の主婦が寝込んだら家庭の中がどんなに大変かということもわかつてきたようです。暮れのあの日、夫は私に五万円のボーナスをくれました。結婚以来初めてのこのプレゼントには、ありがたうという意味がこめられているようです。  
お産は、できるだけ親に頼らない方がいいと思つた。夫を愛するために、そして夫婦としての自覚を高めるためにも。そうすれば子どももわかつて協力してくれるでしょう。親だつていつまでも元氣ではないのですから。



あんふあんて  
から  
あんふあんてへ



# 映画「おもしろ学校の一日」を観て

杉並区

先日「おもしろ学校の一日」というドキュメンタリー映画を見て来ました。これは、藤沢市の小学校で名取弘文という男性が家庭科を教える公開授業の一日を追ったものです。奄美のチマキを作るという授業では、まずモチ米を入れる袋を縫い（裁縫のカリキュラム）チマキを割り、校庭で火をたく。大鍋でゴトゴト半日かけて煮る。そして家庭科室に行つて筒状になったチマキを袋からとりだし切りまします。この時、ワイワイガヤガヤ見学者も口をだし、舌をだして、きな粉をかけて一緒に食べるのです。授業参観風のシーンと静まった雰囲気想像しては私にはびっくりです。

次は、五年生対象に「男の子、女の子」という授業をやりました。この授業までには、男女の体の違いの勉強だけはさせていたのです。そして前日までに男のくせに何々するな、女のくせに何々するなと思う事を各自が画用紙に記入していたのです。例えば「女のくせに暴力ふるうな」とか「男のくせに泣くな」とか。それを一枚ずつ提示しながら、暴

力をふるうという事は、女だけにいけない事で男はいいのか、という事をみんなで討論するので。小学生は、女の子が結構強いらしくて、男の子が弱みをこめて「暴力はやめてほしい」なんていうのです。それに対して女の子の反論とワイワイガヤガヤ。又、見学者に質問して大人の意見を聞いたりで、結局、男の子、女の子、一般とジャンルに分けるのが「男の子、女の子」だけにあてはまることとでなく、これらはどちらにもいえることとして一般の部類にはめられていくのです。男女差別はいけないとか大上段に構えるのでなく、さりげなく人間としてみんな同じだよ、と教えてくれるのです。

家庭科の教師と言っても、全てに万能なわけではなく、ミシンはミシン屋の生徒の父親に教わり、パン作りはこれ又生徒の母親にきてもらって一緒に作ったりするそうです。まさしく地域にひらけた学校。

今年から家庭科がある我が息子の学校は、専任はいなくて担任が適当にやってお茶を濁すとか「男の担任だったら目もあてられないよ」と先輩の母親達。映画を見ていてうらやましくなってくる。生徒が先生をあだ名で呼び、先生も怒るでなく和気あいあい「生徒どうしの呼び捨てはいけません。くん、さん、をちゃんといえなさい」と強制する息子の担任。私なんか仲がよくて、呼び捨てにできるのだから「呼び捨てでいいんじゃない」とつい言うってしまう。

あー今年も我が子の学校は、おもしろくなさそう。

## 第一步、踏み出しました

相模原市

公民館のポスターを見て二名、直接声をかけた人一名、そして私と大人四名、子供五名で第一歩を踏み出しましたが、先々いつまで続くのか心配になる程、意見がまとまりません。でも、各々やる気があればこそぶつかるのだと良い方に考えて、頑張ります。

友達やあい

千葉の田舎に越して一年。自然の中で子供も育てたかつたし、色々な事情を押してなんとか家を借り、家の周囲を畑に耕して暮らしています。自然の中はよかったけど、二才半の息子の遊び相手はいず、私も同年代の人をほとんど見かけません。

「あんふあんて」にも友達を求めている人が案外でいます。そんな友達友達になりませんか。近くとも遠くとも友達を求めている人同志集まりませんか。月に一度、年に一度でもいいから会おうとか、電話や手紙のやりとり、子連れの合宿やハイキングなど、色々できると思います。

「友達やあい」友達を、自然を求めている人この指とまれ」

私の所は田舎で自然がいっぱい。家も広いし都会で自然を求めている人にはいい所。どなたでも遊びにきて下さい。母子共々大歓迎。自然児の二才半の息子。おっとりほんわりの七ヶ月の娘。てれえつとして頭で考える半分も体の動かぬ夢追い人の母親—こんな私達の友達になつて下さい。連絡まっています。

## 三番目の娘へ

杉並区

「生きられなかった人生」この詩を目にした時、私は悔やみさで胸が一杯になった。ほんのひと月前に、その痛手を味わった私にはあまりに残酷な仕打ちのように思えた。確かに私の都合で処理したのかもしれない。無責任と非難されても仕方がない。しかし私の精神状態、上の二人の子供の事、経済的な事、全て含めて、当時の私には無理だったのだ。

二人目の出産時点で上の子にかけたしまった大きな負担、少しづつ償い始めた矢先の事だった。今、彼女にこれ以上負担はかけられない、今の私はまた、彼女に負担をかけてしまおうと言う恐怖。事の重大さをあまり感じていない夫に、「手術中、私の足元に立って見ていなさい」とどなってしまった。彼は始めて青ざめた顔をした。二人の子の育児疲れ、夏の疲れ、つわり、精神疲労、全て重ってフラフラの状態だった。それが、麻酔が切れると同時に消えてしまった。体調が良くなる事になにか後めたさを感じながらも、何故か、二人の子供がいておしくなつた。三番目の娘—何故かそう確信していた—の分まで、今の私は、この二人を慈しまなければと思った。今までうとましかつた事が、新たに、愛らしく見える。驚きであつた。今はこの二人と共に生きていかなければと思えたのも、三番目の娘のおかげだと思つている。当時の心身の状態で妊娠を継続していたら、私もこの子らも今どうなつていたかわからない。今、私は毎日二人をひきつれて飛び回っている。私の出した結論はまちがってはいなかったと思う。

う少し私自身にゆとりができたなら、今後は必ず四番目の娘を生むつもりである。今、私達家族が楽しい毎日を送っているのは、あの彼女のおかげだと思つている。

今は、あの詩のぬくもりを感じる事ができる。只、一瞬に「悪い事」だと決めつける事だけはしないではい。

外池様 二月号の「子供の病氣」の反論に答えて

大田区

確かにおっしゃる通り、甘い物を与え過ぎていた結果かもしれません。母乳が関与していないとは断言できません。そのできた時期、位置、形態を考えた場合、母乳がかなり悪影響を及ぼしていたと考えられます。

貴方様のお友達が、母乳を飲ませていても虫歯にはならなかったという事ですが、虫歯になる要因としては、その子の歯質、唾液の量、その粘度、歯の形や遺伝的なものなど、いろいろなる事が考えられます。皆が皆、母乳で虫歯になるとは限りません。しかし、乳中の蔗糖が虫歯をつくる可能性は大です。

歯に關してのみでなく、母乳が栄養となるのは八ヶ月までで、八ヶ月以降は、有害になるという事実がある事もお忘れなく。

カルシウムについては、私が軽率な表現をしたかもしれないが、人間の体重の二割はカルシウムで、体内のカルシウムの九十九割は歯や骨に存在しているという事です。カルシウムが、無関係とはいえないと思います。やはりバランスのとれた食事が強い歯の子供をつくる一番の条件だと思ひます。

## あんふあんて浜松のおかげで

浜松市

私は、子供が生まれ、八年間続けた仕事で一年半前にやめました。楽しいはずであった生活に今一つ、もの足りなさを感じていました。そんな昨年の春、ご近所の方と立ち話をしている時、「子供をみていてあげるから、自分の好きなことを何かなさつたら」といわれました。その言葉を聞いた時、全てをじつとがまんして、当分子供と生活するのだと自分にいきかせていた私は、すつと道が開けたような気持ちになりました。それから、次第に子供を預かり、預けたり。日を重ねていくうちに、「時給制にしましょう」となりました。そして「あんふあんて浜松」が生まれたのです。

今は、「あんふあんて浜松」のおかげで、ずい分張りのある生活となり、仲間の協力での二月から、夜間の簿記学校へも通える事になりました。又、育児の事、女性の生き方、社会問題という話し合える多くの友もできました。もちろん子供も楽しそうです。今年、子供と共に成長できるよりはります。



## グループ紹介

☆あんふあんで浜松

会員十四名

幼い子供を育てながら、母親がいきいきと生きるために女性同志でネットワークを作ろうという発想から生まれました。既存の保育園や幼稚園ではなく、しかも安心して子供を託せる場を会員相互で創り出していく事が主眼です。現在は、一時間一人五百円(二人目からは三百円増)で、お互いの了解ができれば預け合うというシステムで動いています。これらは個人レベルでの動きですので、毎月第一火曜日に例会を行ない、全員が顔を揃えることにしています。

今後の課題は、資金集め、共同保育、例会の運営、地域別グループ作り等、問題は山積していますが、共に考え、語り合うことによつて会を維持し、一人一人が成長していける会でありたいと思います。高校生、育児を終えた人、米国人をも含めた多様な女性の集まりです。

☆ペンギンクラブ

昨年十月、行徳で開かれた子育て講座をきっかけにできました。当初十八名が九名に減り、再びメンバー募集をして十三名集まりました。まだメンバーは定着していませんが、皆、熱意があり楽しみです。近くに、江戸川土手、蓮田等があります。待ちに待った春、一緒に外へ出しましょう。また鳥が好きでこち

らへ来た程ですので、鳥をみたい、知りたい人も、ぜひ連絡を！  
毎週火曜日 本行徳公民館、十時半より

☆京王線千歳山駅周辺グループ

現在、母五人、子六人で週一度集まって、雑談しながら子供と遊んでいます。今一つ目標が定まっています。お近くの方集まりませんか。又、共同保育に関してアドバイスをお願いします。

☆そうさん

会員六名

親と子のすこやかな成長のための勉強、レクリエーション、映画等を企画しています。

☆ウイズ・ナリーチャ

会員二名、他六名

ハイハイから幼稚園に通う子までいます。今は遊ばせながら話しあつてるところ。将来は共同保育も計画中、例会は毎週水曜午後。



## 図書コーナー

育てるものの目

津守房江著  
婦人之友社 九百円  
中野区

おかあさん方が、忙しい育児の合間にこの本を開けて、どこからでも読む事が出来る様に、そして、楽しく育児が出来様に、という事をとても良く考えてつくられた本です。育児書の理想的母親になれず、イライラの子育て真最中のおかあさんへ、子育てを終えた著者から、子育ての中で、子供達の日常の小さな出来事でも、大事に心を留め、子供の行動の意味を思いめぐらしたことで、育児を楽しんでやり続けることができたんですよ、だからあなたも楽しみながらやってみて、そんな風にかかれています。

又、どうやったら良い子を育てることが出来るか、でなく、どうやったら子供との生活を楽しくすることができ、それぞれの子供がその子らしく生きるよう、助けることができるかが、いつも心にあり、この本の根底を流れています。

この本を読んでいると、子供ってどの子も、昔も今も同じなんだと、笑ってしまったり、あの時の私の態度は、やはり反省しなければいかなと思ったり。確かに私達大人って、反省しなくなつたんじゃないかしら。昔、今よりも少し若い頃は、布団の中で一日の反省なんて、よくしたものです。反省。何よりも「母親は管理者じゃない」という

言葉に、今の私はどきどきとし、

「私達おとなは、自分が演奏家のようになつて、子供という楽器からどうやって良い音を引き出すか、と考えやすい。それが強くなると大人の気に入つた音を出さない楽器(子供)に腹を立てることにもなるが、親も又楽器と考へた時には、親と子は互いにひびき合い、美しい音楽となるように、相手の音を聞くことが出来るのだと思う。思わず文章をまるごと抜粋してしまつたけれど、親も又、楽器となつてひびき合うなんて、素晴らしいと思いませんか。私は子供達とひびき合いたい」

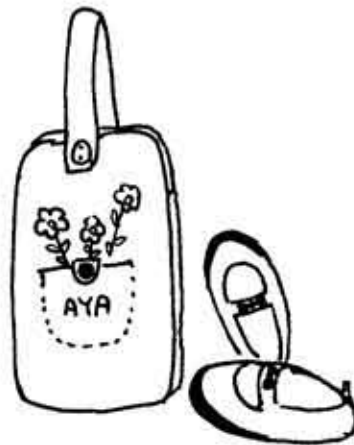
又育てるものの目として、二つの視点

①今というときを生きたときの視点  
(子供と同じ目の高さでの見方)

②そうやって生きる今というときが、この子の一生の中でどういう意味があるのかを問う視点

この二つのことが、保育の中で大切だといっています。

母親だけでなく、子供に関わる全ての人達が、この視点で子供達をみてくれたら。  
「育てるものの目」読んでみて下さい。



## 情報コーナー

☆講演会「幼稚園ってどんなところ」

一行っている人も、これからの人も、幼稚園に深い関わりを持つ森本さんを招き、その実体を聞きます。子育てについて語り合います。子連れ大歓迎。お弁当持参可。

○日時 4月18日(木) 11時  
○場所 国分寺市立窓ヶ窪公民館(国分寺線窓ヶ窪駅下車徒歩10分)  
○講師 森本邦子(ミネルヴァ心理研究所主任カウンセラー)  
○会費 三百円(含資料代)  
○主催 あんふあんで国分寺グループ  
○連絡先 安原

☆横須賀・三浦周辺の方、楽しいグループ作りませんか。子持ちで集まつておしゃべりしましょう。

☆八子育てひろばVペンギンクラブ  
自主幼稚園?それとも幼稚園に入れる?一緒に話し合いませんか。

講師 矢野恵子・森本邦子  
四月十二日(金) 10時~12時  
行徳公民館(東西線行徳駅)  
会費 五百円 託児一人一百円(要電話予約)

☆託児を手伝ってくれる人いませんか?千円プラス交通費支給  
☆自主保育グループをいっしょに作りませんか。(二、三才児中心に)

障害を持った乳幼児のお母さん達と交流しながら子育てを共に考えましょう。  
活動場所は赤松公園・松沢児童館で。連絡先

午後七時~九時に。

☆HELP!!

急ぎ四月から子供を預けて、ミニマートサービス(一般家庭の清掃代行業)のFC店を開業することになりました。お近くの方で週二日以上、時給七百円で二~三時間仕事のできる方、ご連絡下さい。ドライバード優遇。

また まで

☆第二回国際フェミニスト日本会議  
六月一日、二日に国立婦人教育会館(東武東上線武蔵嵐山駅) 問い合わせ、申込用紙請求は  
☆グループわいふが発行した261人の妻たちの性のレポート  
「性」だけを切りはなしてとらえるのではなく、夫と妻との人間的な関係を軸にしてとらえたレポートです。ご注文は電話でグループわいふへどうぞ。定価千三百円。送料はサービス。グループわいふ



※六月号は「いい女、いい男」特集の予定です。次のような項目について原稿を集めたいと思います。

○あなたにとっていい女、いい男って？

○具体的に名前をあげて（イメージでもよい）最近、いい女、いい男に会ったことありますか。

○子育てまつ最中の貴女に、

○子供を産んでからも、いい女である努力を続けていますか。

○その他にいい女、いい男について考えていることがあったら何でも書いて送って下さい。（5月15日頃までに）

原稿の送り先は

## 事務局から

○今月号から会報の発送作業を会員の幾代宅ですることになりました。こちらは幾代さんの仕事場でもあるので、なるべく子なしで来れる方の協力をお願いします。駅から近いです。

○埼玉の「いい女、いい男」はメンバーの転居の為、グループとしては解散することになりました。杉並区の「ミニミニの会」はあんふあんとを脱会しました。



## スタッフから

●前半ハリキッテいたのだが、後半は体調をくずし辛かった。でも、勧められて読んであんふあんとのパックナンバーが、私にとってなかなかの収穫だった。なかでも「あんふあんと」の目「は秀逸。あんふあんとで発足当時の編集部の熱気と意気込みがムンムンと伝わってくる。皆さん、是非一読を」（大籠）

●原稿が原因で夫婦ゲンカ。私の原稿を読んでもよく書けてるといったのに、12時過ぎまで

かかって添削。その気持は嬉しいが何故か着し過ぎた関係のようで。しかし、子育てにつれあいを巻き込み、女の活動の仲間を引き入れるのも手間がかかる。二日酔いの頭をかかえての参加。楽しかった。つれあいを「同志」と呼べるのはいつの事か。（川畑）

●この一年間生協の運営委員長を引き受けてしまい、あんふあんとでの活動は思うように参加できず後悔しきり。この三月でそれも終えさあ四月から自主保育をがんばるぞ！と思いきや、三人目をご懐妊。おめでとうの言葉とはほど遠い心境。ああ、子育てにあけくれる私の二十代。でも三人いると楽しそうだなーと聞き直って、再びがんばろう。あんふあんとのお産の本早く読みたい！（三谷）

●知的な内職とやらを始めたけれど、楽しいのは育児ボケの今の内かな？タカタのベビーガーディアン半額で譲ります。（坂本）

●ミニメードサーブス開業！！求む、助っ人、歓迎、お客様。（勝田）

★入会申込みは切手四百円分同封し、住所・氏名・電話番号・郵便番号を記入。宛名は表紙上段に記載。

★参加費は一ヶ月四百円。なるべく六ヶ月以上まとめて郵便局で。振替口座は表紙上段に。特に未納の方は至急払い込みを！休会、退会も必ず連絡を。

★事務局の電話受付は原則として月々金曜の二、四時です。御協力を。